

# 郷 俣

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、  
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

## ☆ 創作の軌跡 1 2 ☆

自分の考えていることを、言葉に表すことは思うより難しいことです。でも、それを繰り返すうちにだんだん、自分の思いを表すのにぴったりの言葉に出会うものです。



### 若い目

#### 運動会の思い出

中間 大洋

たくさんの歓声のもと、ぼくたちの小中学校運動会が始まった。ぼくは、運動会で楽しみにしている競技がある。それは、綱取りだ。年々、男子の数が少なくなり迫力はなくなっているが、人数が少ないからこそ一人一人の力がとても大切だ。グラウンドの両端にあるコーンに綱をつけるというシンプルな競技であるが、ぼくは一番盛り上がる競技だと信じている。

ぼくの学校は、生徒数が少ないため、六年前から小中合同運動会を行っている。小学校一年生から中学校三年生まで、みんな楽しんで運動会をしている。だれ一人欠けてはいけない、一人でも欠けていたら今年の運動会は成功していなかったと思う。この小中合同運動会がいつまで続くかわからないが、続かきぎりぼくは全力でがんばりたい。



### 税の作文

今年も税の作文にたくさんの応募がありました。400点をこえる作品の中で、花堂 亮君の作品がみごと小林税務署長賞を受賞し、先日本校で表彰式がありました。

#### 納税の大切さ

花堂 亮

僕たちの身の回りにはたくさんの税があります。その中でも、一番身近な税は消費税です。昨年、消費税が8%にあがりました。近いうちに10%に上がると聞いて驚きました。消費税はどんどん高くなっていくのだと残念に思いました。同時に、僕たちが支払っている税は、僕たちの生活にどのように関わっているのだろうかという疑問も生まれました。

僕たちの生活の中で、税は学校や公園、警察など様々なものに使われています。租税教室で話を聞いて、一番驚いたのは、教育費の高さです。僕たち中学生には、一人当たり年間約100万円もの税が使われています。また、学校で使っている机やいすも高価なもので、教室内にあるだけでもかなりの金額の税金が使われていることが分かりました。僕たちが当たり前のように学校で学べるのは、税があるからだということを改めて感じるようになりました。

また、租税教室では、アメリカの消火しない消防サービスの話も聞くことができました。支払していなかったため、家が火事になったにも関わらず、消火活動してもらえず、家が全焼するのを見守るしかなかったそうです。この話を聞いて、税金を納めることの大切さを感じました。日本の国民が税金を納めているからこそ、日本は安心して暮らせるのだと思います。

税は、国や地方公共団体が財政活動を行うのに必要な費用をまかなうために、国民に負担を求めます。日本に税がなかったら僕たちは生きていけないと思います。学校に行けず、生活費が足りず、食べるものに困っても十分なサービスを受けることができず、病気になる可能性もあります。だから、税は、僕たちの生活には、欠かすことのできないものであり、僕たちが税金をしっかりと納めたいと思います。

僕たちは、今、様々な人たちの支払った税に支えられて生活しています。だから、僕が大人になったときは、僕がこれまでしてもらったことを、僕たちの子どもたちの世代に受け継いでいきたいです。そのためにも、税をしっかりと納めるといふ気持ちをお忘れなようにしたいです。